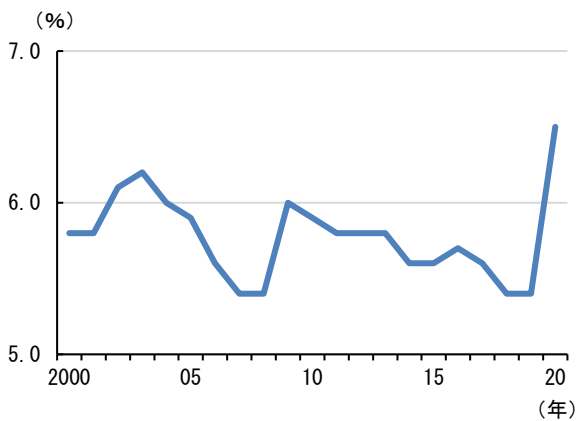


世界の失業率がコロナ前まで低下するのは2020年代後半

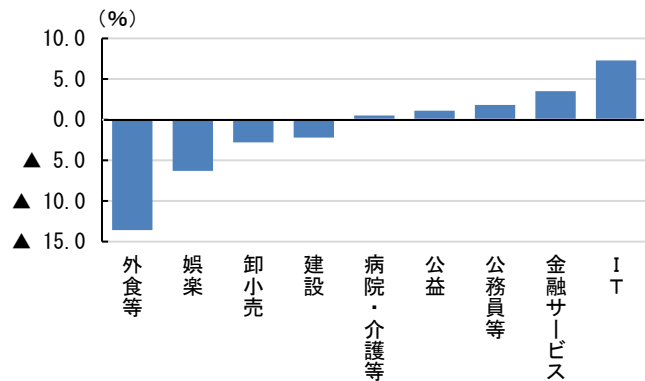
- (1) 新型コロナによって世界の雇用環境は急激に悪化。2020年の世界の失業率は前年より1.1%ポイント上昇し、6.5%と21世紀で最悪の水準（図表1）。
- (2) また、二極化が進展したことが大きな特徴。外食などで雇用が大きく減少した一方、ITなどでは雇用が増加傾向（図表2）。
- (3) 過去の傾向をみると、世界の失業率は世界経済の実質成長率と逆連動（図表3）。実質成長率が3%を下回ると雇用者数は減少に転じ、成長率が1%下振れるごとに失業率が0.2%ポイント上昇。これを踏まえれば、世界の失業率は2021年に6%を下回り、2025年頃にはコロナ前の水準近辺まで低下すると試算可能（図表4）。
- (4) もっとも、①K字型経済の長期化により、不況業種での雇用回復が遅れる恐れがあること、②新興国ではワクチン普及ペースが緩慢であり、先進国よりも雇用の回復力が弱い可能性があること、などから、世界の失業率の低下ペースが緩慢になるリスクも。

(図表1) 世界の失業率の推移



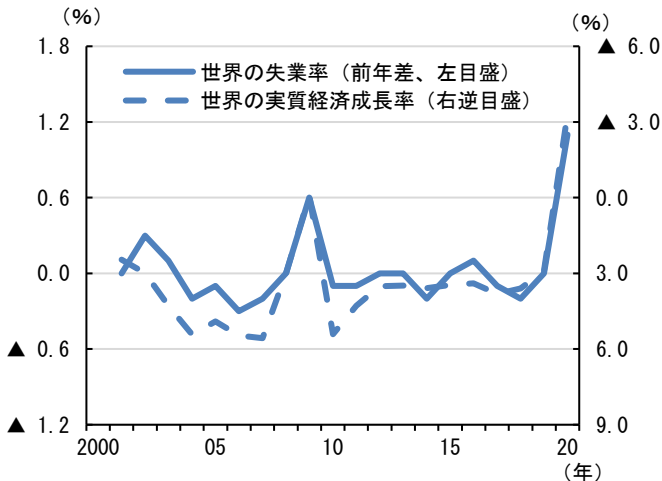
(資料) ILOを基に日本総合研究所作成

(図表2) 世界の業種別雇用者数の推移(前年比)



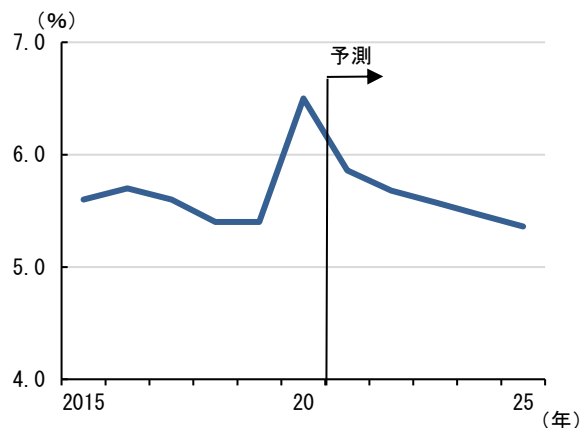
(資料) ILOを基に日本総合研究所作成
(注) 2020年7～9月期

(図表3) 世界の経済成長率と世界の失業率



(資料) IMF、ILOを基に日本総合研究所作成

(図表4) 世界の失業率予測



(資料) IMF、ILOを基に日本総合研究所作成
(注) 前提となる世界実質成長率は21年、22年は当社予測値、23年以降は3%台後半と想定。

【ご照会先】 調査部 マクロ経済研究センター所長 石川 智久 (ishikawa.tomohisa@jri.co.jp, 080-9655-9444)

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時時点で弊社が一般に信頼出来ると思われる資料に基づいて作成されたものですが、情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また、情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがあります。本資料の情報に基づき起因してご関係者様及び第三者に損害が発生したとしても執筆者、執筆にあたっての取材先及び弊社は一切責任を負わないものとします。